

## 第1回会議での主な意見

### <北山文化環境ゾーンの捉え方>

- ダイナミックな変化に対応し、これまでに策定した「北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告」等のマスタープランを成長・進化させることが必要。(門内)
- 国立京都国際会館や京都精華大学、総合地球環境研究所、京都産業大学などもグレーター北山として意識しながら、考えていくべき。(木下)
- 岡崎・梅小路、さらに京都市立芸術大が移転する京都駅エリア等、他文化ゾーンとの関係も考えることが必要。(門内)

### <北山文化環境ゾーンの整備の視点>

- 植物園や府大グラウンド、3大学教養教育共同化施設など、現存するゾーン内資源との連携・活用が大切。(木下・並木・中野・門内)
- 府立大学と植物園との境をなくして、借景として取り込めば、すばらしいキャンパスになる。塀をなくし全体が公園になっていて、その中に施設がヴィラのように立つイメージとなる。(並木・門内)
- これからは敷地の垣根を越えてミックスユース、やタイムシェアリングなど(官民施設含めて)お互いに相互利用する観点で、エリアマネジメント、エリアデザインしていく時代。(門内)
- 府民や市民にどのような感動できる・ワクワクする体験を提供できるのかなど、ユーザー目線に立った考えが必要。(門内)
- 全体のランドデザインと、個々の施設整備を相互に連携させながら検討していくことも大切(羽田)
- 未来型の新しい京都の文化の創成と、世界に向けた新しい価値を創造するエリアのゾーンイメージもある。(佐々木)
- ◎北山は東京的な場所であり、それをポジティブに捉えることがキーになる(高橋)
- ◎北山地域に大学は多いが学生の滞留が少ない(田井・佐々木)
- ◎「他地域からの観光客の呼び込み(中野)」「人が回遊する(田井)」「ハイブリッド可能な機能の施設とイベント等の併用(高橋)」などの視点も必要。

### <資料館跡地活用のイメージ等>

- 文化首都京都として世界の視点で文化を発信するため何が必要か。何が足りないのか等の議論も必要。(佐々木)
- 集客には魅力的な施設やおもしろい体験・イベントがあるなどマグネットの力が必要。(門内)
- 周辺の居住環境にも配慮が必要。その上で居住・宿泊滞在政策や商業・にぎわい政策とリンクした検討も必要。(中野・門内)
- 「経済的繁栄から人間関係の豊かな繁栄(門内)」「人が集う(中野)」「余韻が楽しめる(羽田)」「自然・エコロジー・生命(門内・佐々木)」などの新しい価値イメージで検討することが必要。
- 具体的な施設のイメージとして、デザインセンター(社会をデザインする拠点(門内))、デザイン工芸ミュージアム(佐々木)、ホテル&ミュージアム(木下)、クラシック以外の文化施設(田井)、文化資料展示施設(羽田)、などがある。